

新年のご挨拶



院長 武藤 正彦

明けましておめでとうございます。

平素より私ども宇部興産中央病院は、地域住民の皆さまの健康の維持増進に貢献していくことを基本コンセプトとして、日夜努力しているところです。昨年10月には新病棟の竣工事業を挙行し、MRIなど最新の医療機器の導入や脳疾患治療センターの拡張など病院の機能強化を推進しつつあります。さらに、2025年問題に関連する地域医療構想調整を見据え、在宅復帰に向けた回復期病棟の拡充にも積極的に取り組んでいきます。

宇部興産中央病院は、これからも患者の皆さまに「当院で治療を受けたい」と感じていただけるよう、心のこもった魅力ある病院作りに職員一同努力してまいります。皆さまの御多幸を御祈り申し上げるとともに、本年も引き続き、当院に変らぬ御理解と御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2018年
1月
88号



地域連携室のイメージ花「たんぽぽ」

たんぽぽの花ことは「真心の愛」「明朗な歌声」幸福を知らせる花、綿毛が地域連携の歌声です。自ら風のにり、地域の中に飛んでいき、地域に医療連携の種子を広げていく…そんな思いを込めた広報紙です。

【病院理念・方針】

いつでも誰でも安心してかかれる中央病院
常に使命感を持ち協調して行動する中央病院

- 一、 医の倫理と良心に従い、より良い医療の提供と医療安全に努めます。
- 一、 患者さんの生命の尊厳と権利を尊重し、患者満足度の向上に努めます。
- 一、 地域の中核病院として関係する地域医療・福祉機関との連携に努めます。
- 一、 経営の健全化と職員満足度の向上に努めます。

地域医療支援病院



医療法人社団
宇部興産中央病院
地域連携室
宇部市大字西岐波750番地
TEL(0836)51-9421

脳神経外科紹介(新棟)

副院長 西崎 隆文

2017年(平成29年)10月26日に脳神経外科病棟が新棟3階に恙なく移転しました。当日は長時間手術が入っていました。われわれが手術室から出てきたときにはすでに全ての患者さんが移っておられ、看護師長をはじめ多くのスタッフの協力により何のトラブルもなく円滑に移転することができました。

移転を機に「脳卒中センター」は「脳疾患治療センター」と名称変更しました。これまで通り脳卒中を中心にさまざまな脳疾患を、一般脳神経外科病棟とともに集中的に治療をしております。センターは半年前に7床から10床に増え、11月中旬から12床稼働を開始しました。急患も少なくない時節にスタッフは瀬戸内海に面した新病棟の感慨に耽る余裕もなく、日々ベッドコントロールに追われ重症病床管理の難しさを実感しています。



脳神経外科ではこの数年で新しいスタッフが赴任しました。常勤医は回復期病棟を含め7名です。脳神経外科専門医の他に、脳卒中、血管内治療、脳卒中外科、神経内視鏡、がん治療、認知症、頭痛といった多くの専門医・認定医、また新たに看護師も多く加わり脳卒中・感染・摂食嚥下などの認定看護師がおります。医師は年間370件の手術に脳卒中を365日受け入れており学会や論文発表を精力的に行なっています。今年の脳神経外科学会では過去最高の6題の発表を行いました。われわれが活躍の場を得るに至るまでに、多くの先達の並々ならぬご努力がありましたことは衆目の一致するところです。先輩方の意思を継ぎ、これまで以上に努力しなければと心を新たにしています。

また34年間当院に在籍された岡村知實先生が12月をもって退職されることになりました。下垂体腫瘍、顔面けいれんや三叉神経痛の機能的脳外科手術など、多くの業績を残され、われわれ後進の教育にも大きく貢献されました。

多くの方々に、新病棟稼働に至るまでに多大なるご尽力を賜りました。心よりお礼申し上げます。



新病棟 手術室

麻酔科 森本 康裕

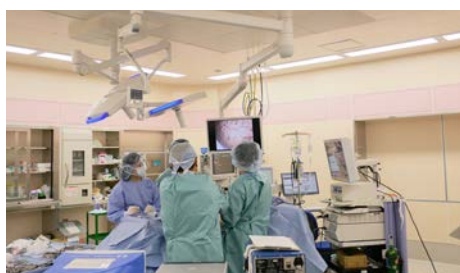
新手術室は新病棟の2階で10月16日より稼働を開始しました。

これまでの手術室は手術症例数の増加に対応できず、しかも個々の手術室は狭いため手術用の機材を入れると本当に窮屈でした。また、女性用の更衣室がないなど福利厚生的一面からも旧時代のものとなっていました。

新手術室は、女性用の更衣室や手術室看護師の休憩室などを充実しました。ほとんど物置となっていた廊下は、広くなり患者の入退室はストレスなく行うことができます（写真1）。手術室数を4室から5室へ増室。個々の手術室もこれまでよりも広くなりました。内視鏡や顕微鏡など大きな機材をいれても余裕の広さです（写真2）。今後より多くの手術を安全に、しかもスタッフが快適に行うことができるようになることが期待されます。



(写真1)



(写真2)

新棟救急センターご紹介

総合診療科 熊谷 和美

当院は宇部・山陽小野田地域の二次救急当番病院として年間122日の二次救急当番を行っており救急車を受け入れています。年々救急患者の受入数が増加し、救急外来が手狭になっていましたが、新病棟では救急車搬送症例等に対応するベッドが4つ、診察室が3室に増えました。

また救急外来に隣接して放射線部門や内視鏡室が新設され、迅速に検査や処置を実施できるようになっています。

新病棟の玄関からつながる広い廊下には医療ガス配管を設置し、災害時の多数傷病者対応が可能となっています。



糖尿病週間行事

現在、日本人の2型糖尿病患者数は約950万人、40歳以上の約10人に1人が糖尿病を発症しています。

当院では11月15日に糖尿病週間行事を開催いたしました。

体重・血圧・血糖測定等の無料検診や個別相談コーナーを設け、72名の方に参加いただきました。また、「糖尿病の泌尿器科的合併症」について、泌尿器科 島袋医師の講演会を行いました。

食事会では25名の参加をいただき、病院で提供している糖尿病食を試食し、糖尿病クイズ大会で盛り上がりました。最後は、理学療法士による運動療法を実践し、楽しい一日を過ごすことができました。

最近血糖値が気になる方は、当院、糖尿病血液内科へご相談ください。



救急スキルアップセミナー

10年目を迎える今年度の救急救命スキルアップセミナーは、参加者多数のため、ときわ湖水ホールの大展示ホールにて開催されました。(10月19日)

参加者は県内消防局より総勢170名の救命士の方々にご参加いただきました。

はじめに会長の小田泰崇先生にお言葉をいただき、第1部の教育講座は、当院脳神経外科 医長 藤井奈津美先生より「脳外科救急病院到着後の検査と治療 ～なぜ急ぐのか～」について、搬送での時間ロスが患者さんの予後を変えてしまうことがあるので、脳外科対応ができる病院に最初から救急搬送をお願いしますと実際の例を提示しながら説明がありました。症例発表は、宇部・山陽小野田消防局の三澤正崇救急救命士より「圧挫症候群」の発表がありました。第2部は、「DNAR※への対応」について、各消防局の救命士の方々から実績報告の後、小田先生、藤井先生を含めパネルディスカッションが行われました。

※DNAR・・・病状悪化に伴う心停止の際には、心肺蘇生を行わない。



CS 接遇研修会

11月18日に接遇研修会を開催しました。

講師は元NHK山口放送局の派遣キャスターでFMきららパーソナリティでもある松原淳子さん。テーマ「言葉と笑顔は使しよう ～コミュニケーションの要となる～」と題し、アナウンサー時代のエピソード、また結婚披露宴の司会での失敗談の中から、言葉やジェスチャーというコミュニケーションをもって相手を思いやる気持ちで接しましょうと約1時間お話をいただきました。



吉井健太郎チェロコンサート (コスモコンサート)

11月13日(月)にコスモコンサートが開催されました。

今回はウィーン交響楽団に40年在籍、うち34年間首席チェリストを務められた吉井健太郎さんに「バッハ無伴奏チェロ組曲」を演奏していただきました。

昼の部、夜の部合わせて約300名の方々は、国際的に活躍されたチェロ奏者の奏でるチェロの音色に約1時間ゆったりと贅沢な時間を過ごしました。

コスモコンサートは毎月1回ピアノを中心にさまざまなジャンルの音楽をお届けしております。

★今後の予定(場所 8F コスモレストラン 演奏時間 約30分)

2018.1.20(土) 14時 杉原 紀子 琴&フルート&ピアノ

2018.2.17(土) 14時 佐々木真人 ギター

2018.3.17(土) 14時 山下 陽子 ヴァイオリン&ピアノ

◎入場無料・駐車券は差し上げます。

コスモコンサート実行委員会

連絡先：宇部興産中央病院地域連携室 TEL 51-9421

